

## P1-054

### 病児の遊びの支援をするボランティア（プレイリーダー）の活動と課題

福田 菜穂子、荻須 洋子、本田 睦子、下村 美紀

認定 NPO 法人 難病のこども支援全国ネットワーク

**【目的】** 子どもは遊びを通して、友達や社会と関わり成長発達している。病気で入院や療養中の子どもにとっても同様で、子どもらしい体験として重要である。そこで、当会では子どもの心理や基礎的な知識と障害や病状に応じた遊びの創意工夫のできるボランティア（＝プレイリーダー）を養成し、病院や在宅療養をしている子どものもとに訪問することで豊かな遊びを提供し、心身ともに健全な成長発達を促している。2015年1月より、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業が始まり、東京都の委託事業として、遊びのボランティア（プレイリーダー）の派遣を開始した。活動を始めて5年目となり、より一層の需要も高まっている。今回、この遊びの支援活動を振り返り、今回の課題について検討したい。

**【対象と方法】** 東京都在住の小児慢性特定疾病対象者は約7000名である。この対象者に東京都福祉保健局によるリーフレットを作成し、プレイリーダーの派遣の紹介欄を設けた。この派遣事業は2015年秋より開始となり、事業開始にあたって活動の趣旨に賛同し、参加するプレイリーダーを募集した。現在プレイリーダーは約78名（2020年4月現在）が登録し活動にあっている。今回、プレイリーダーの活動報告や対象病児の医療的ケアの状況などを統計的に調査して、振り返ることとする。

**【結果と考察】** 5年目の事業となり、新規登録の利用者も増えている。その利用者となる病児が家庭で行っている医療的ケアは、吸引・経管栄養・人工呼吸器管理等があり、病気の重さも見えてきた。また、訪問希望の動機も訪問看護師などの医療者の紹介もあった。訪問を希望するリピーターも多く、病児や家族に受け入れられ喜んでもらえていることがわかった。病児が楽しい遊びの時間を体感しコミュニケーションや表情が豊かになり、病児の不安な気持ちを取り除いていることや、家族も笑顔で過ごす癒しの時間となっていることが利用者の感想から見えてきた。プレイリーダーは限られた時間と素材の中で、その子に合わせた遊びを工夫しようと努力している。しかしながら訪問を希望する家族とプレイリーダーのマッチングの困難さと、訪問するプレイリーダーの数が比例して増えないことも事実である。病児の心へのサポートは病気の改善に有効であることが科学的に証明されていることから、これまで以上に研修やミーティングなどの内容の充実を計りたい。